文京区観光情報発信リポーター活動報告　Vol.4

2023年12月

【訪問 ③】

文京区を５つのエリア（根津・千駄木、湯島・本郷、後楽園・春日、関口・目白台、小石川・白山・本駒込）にわけ、各エリアで２名ずつ留学生が活動しています。年度内に３つの観光スポットを訪問する予定で、３回目の訪問が行われました。３回目の訪問は、エリアに関係なく希望のスポットを各自選び、レポートを作成しています。活動毎に提出されるレポートのうち、５名のリポーターの訪問レポートを紹介します！

（レポートは留学生が作成したものを原則そのまま掲載しています。）

光源寺

駒込大観音への訪問の途中、栄松院や清林寺など、エレガントな和式庭園のある同じ雰囲気を持つ他の寺院も見つけました。この「訓戒」から、さまざまな考えや自己への啓示を感じました。光源寺の庭園では、紅葉した葉や明るい花など、さまざまな鮮やかな色が目に入り、より豊かな色彩が感じられました。こうした自然の美しさと共に見えるのは整然と配置された墓地でした。こうした風景を通じて、墓にいる魂も幸福を感じているようでした。

大きな観音像は、金色に輝いており、寺院にうまく配置されています。ただ、残念ながらガラスで仕切られており、観音様の体をクリアに見ることはできませんでした。観音像の前にある左右対称の長夜灯に照らされている場所で、非常に荘厳な雰囲気が漂っていました。ただ、訪問は昼間だったため、夜になるとランプはどのように点灯し、観音像を照らすのかが気になりました。

乙女稲荷神社

文京区にある乙女稲荷神社は、千本鳥居が並ぶ魅惑的な場所にあります。稲荷神社は、日本語では「稲荷神社」として知られ、稲荷神を祀る場所です。稲荷は、狐、稲、家内安全、商売繁盛、豊かさなどに縁の深い神として崇められています。

稲荷神社には通常、狐の像が置かれており、狐は稲荷の神の使いとされています。これらの狐の像は通常、雄と雌を象徴する二体一組の一対で作られます。多くの場合、これらの狐の像は、口や前足の下に様々な象徴的な物を持って作られています。最も一般的なものは宝石や鍵ですが、稲束、巻物、子狐などを持ったものもあります。この神社は、春のツツジの季節が特に有名です。

六義園

東京にいながら日本の南の美しい島々を訪れることができると想像してみてください。あるいは、東京のオフィスから徒歩圏内にありながら、東海道の古道の一部をのんびりと散策できることを想像してみてください。六義園の魅惑的な風景は、まさにこれ以上のものを提供してくれます。

私が文京区に住み始めて１年以上経ちますが、それも六義園からわずか半キロの距離であるにもかかわらず、今週まで一度も六義園に足を踏み入れたことがなかったのは神をも冒涜するようなおこないです。この極悪非道な怠慢の理由は二つあります。第一に、六義園が江戸の庭園の中でもトップクラス、いや、最高峰の庭園のひとつであることを知らなかったことです。第二に、このような "庭園 "は全国にあまりにもたくさんあり、私の単純な考え方としては、ほとんどの庭園は似たようなものだろうから、わざわざ別の庭園を訪れる必要はないだろうというものでした！今振り返ってみると、私の予想はまったく当たっていませんでした。しだれ桜や数々の橋など、六義園には見る者を魅了するユニークな見どころがたくさんあります。古典の漢詩に倣って造られた園内には、日本全国から選りすぐった風景が各所に配されています。チケット売り場を通り過ぎた瞬間、かつては個人所有だった庭園の美しさと光景に魅了され、いつまでもそこにいたいという衝動を簡単に抑えることができないのは言うまでもありませんでした！

白山神社

東京都文京区白山にある白山神社を訪れました。白山神社の起源は西暦 948 年まで遡り、西暦 1655 年に現在の場所に遷宮されました。この神社は、明治天皇が東京市民の聖域として選んだ東京十社のひとつです。今日に至るまで、白山神社は伝統的な神社建築の模範であり、敷地を取り囲む現代的な建物とは対照的な存在です。夕暮れ時、石造りの鳥居に近づくと、大通りの喧騒とは打って変わって、静寂が広がっていました。日本の神社は、仏教の寺院とは異なり、自然の神を崇める神道に深く根ざしています。その儀式には様々なニュアンスがあり、例えば、参拝者が敬意を表す際の作法があります。神社では、賽銭（さいせん）を置いた後、一連の動作を行うのが一般的です。賽銭箱の中に賽銭やお賽銭を入れます：二礼二拍手一礼です。これに対して寺院ではお賽銭を納めた後は、拍手をせず、胸の前で合掌します。もうひとつ、白山神社では年間を通してさまざまな行事が行われています。6 月には「文京あじさいまつり」が開催されており、敷地内に点在する青と紫の見事な紫陽花を鑑賞する機会に恵まれました。結論として、文化に浸るためであれ、東京のハイペースな生活から束の間の逃避行であれ、白山神社はその存在感を放っています。白山神社は、歴史と現代の生活が融合する、欠かすことのできない場所です。このダイナミックな大都市の本質を垣間見ることができます。

春日局

春日局（1579～1643）は、明智光秀の右腕とされる家臣、斎藤利三の娘として生まれ、後に徳川三代将軍家光の乳母となりました。家光が将軍になると、彼女は大奥を取り仕切る重要な立場となり、女性ながら幕府内で大きな権力を持つようになりました。彼女の墓所がある麟祥院は、春日通り沿いに位置しており、多くの人々に知られています。

春日忌

春日忌は、徳川家光の乳母であり、春日の町名の由来となった「春日局」をしのぶために開催されました。このイベントは令和 5 年 10 月 21 日に彼女と深い繋がりのある麟祥院で行われ、法事、特別講演、物産展、抽選会など、様々なプログラムで構成されていました。

イベント当日は、元 NHK アナウンサーの村上信夫さんが司会を務め、浪曲師の澤雪絵さんと三味線奏者の玉川鈴さんが「春日局」や「左甚五郎伝より竹の水仙」を披露し、会場を盛り上げました。境内では、春日局ゆかりの地、丹波市、真岡市、津和野町などの物産展や、湯島・本郷地域の商店による春日忌限定和菓子の販売がありました。また、親子で楽しめる縁日の出店もあり、春日忌限定の御朱印も配布されました。会場は出入り自由で、ベビーカーでの来場も可能でした。

実行委員会副委員長に話を伺うと、「(春日忌は) 年々地域に浸透し、供養をきっかけにさまざまなご縁で成り立っていることを実感している。今年は春日局のご威徳に触れられるパネルの展示方法を変えたり、真岡市のバナナ農園・ラフファームなど新たな出店があったりと、内容もより充実している。」と述べました。

これにより、春日忌は成功裏に終了し、春日局の徳を称え、彼女の精神を次世代に伝える貴重な機会となりました。また、地域社会の結束を強化し、伝統文化の継承と普及に寄与するイベントとなったと言えるでしょう。